

ヨエル書

預言的な詩を集めたこの書は短

くも力強く謎に満ちています ヨエル書には他の預言書とは違う

特徴がいくつかあります

まず書かれた時期がはっきりしていません

エルサレムとその神殿についての記述がありながら

そこに王がない様子から捕囚から帰還したあとの

エズラネヘミヤの時代ではないかと考えられます

もう一つの特徴はヨエルが聖書に精通していた点です

彼はイザヤ書アモス書ゼパニヤ書ナホム書オバデヤ書

エゼキエル書マラキ書出エジプト記から引用しています

このことはもう一つの特徴にもつながってくるのですが

ヨエルはイスラエルを非難しながらその罪を特定していないのです

他の預言者と同じように彼もイスラエルの罪に神の裁きが下

ることを告げ知らせますがどの罪のためとは言いません

まるでヨエルと同じように読者もすでにほかの預言書を読んで

いてイスラエルの反抗について知っている

という前提に立っているかのようです

この3つの特徴はヨエル書を理解

するのに役立ちます つまりヨエルは自分の時代より

前に書かれた聖書を熟知していて その知識を通して現在の悲劇を

理解し 同時に将来への希望も持っていた

ということです ではこの書を詳しく見ていきましょう

1章と2章でヨエルは主の日に焦点を当てています

これは預言書のキーワードで神が民を救うために

あるいは悪と対決するために力強く現れた過去の出来事を言って

います たとえば出エジプトの十の災いの

ように預言者たちはこれらのことを神

がまたイスラエルそして近隣諸国の罪

に立ち向かい全世界に救いをもたらす未来の出来事

を指し示すものと考えていました

この1章と2章で彼はこのテーマについて語る
2つの類似した詩を並べています

1章は過去の主の日について語り
まず イナゴの群れによる災害がイスラエル
を襲いましたが これはエジプトに対する主の日
である 十の災いの8番目をなぞるように
して書いています
ただし今回イナゴが差し向けられた
のはイスラエルです そこでヨエルは
その民を悔い改めと祈りに導くよう長老や祭司たちに呼びかけ
自分も彼らと一緒に悔い改めます

続く2章も同じ構造で同じメッセージ
を伝えます別の主の日について書かれています
が今度は過去ではなく未来の主の日
でエルサレムに災いが訪れようとして
いるのです またイナゴの災害のようですが
ヨエルはそれをとてつもなく大きな軍隊が攻めて
くるイメージとして書いていますイナゴは騎兵隊のような神の軍隊
で その通る道のすべてを食いつく
していくのです

太陽は暗くなり地は震え恐ろしい
主の日を誰が耐えられるだろうかとヨエル
は言いますそして再び人々に祈り悔い改める
よう促し衣ではなく心を引き裂き神に立ち
返れと呼びかけます

つまりヨエルは
人々が表面的な悔い改めでごまかそうとしていることを知って
いたのです 彼は神が求めるのは民の本当の
改心で彼らが自己中心と悪を手放すこと
だと言います ヨエルは神は情け深く憐れみ深く
怒るのに遅く愛に満ちているからイスラエル

は悔い改めるべきだと言いました

これは出エジプト記 34 章で

イスラエルの民が金の子牛を作った後の箇所を引用しています
ヨエルは神の憐れみと愛は神の怒りと裁きより強いことを
知っていました だからこそ彼は祭司たちに悔い
改めて祈り民を救ってくださるよう願えと
促したのです

この 2 つの詩のあとに場面は変わり

ヨエルと民の悔い改めに対する神の応答が紹介されます
神はご自分の地を愛しご自分の民をあわれまれたと
そして神は主の日の破壊をあがない 裁きを救いに変えると言ったの
です 神はまずイナゴの様な恐ろしい
侵略者を打ち負かし破滅へと追いやります
それから荒れた地を癒して命を与え潤し
ついには神がその民の間に臨在するのです
これらの詩を通してヨエルはイスラエルに
彼らの罪が破滅と神の裁きを招いていること
しかしそこに神のあわれみと希望もあることを示してきました
ヨエルは過去の出来事を来るべき主の日に重ねて見えています

なので最後のセクションでは神の 3 つの応答に応じる 3 つの詩
を書き他の預言書からのイメージも織り

込みながら全世界の希望を表す幻に仕上げ
ているのですまず民の間に現わされる神の臨
在の希望が いつの日か神の命溢れる臨在である
聖霊が神殿のみならず 神の民全体を満たすという約束
に拡大されています そしてヨエルはここで神の霊が
神の民を造り変え力で満たし 真心から神を愛して従えるようにする
という約束を イザヤ書エレミヤ書エゼキエル
書から引用しています ヨエルは次に
神がやがてイスラエルを脅かす 侵略者に立ち向かうという
約束を取り上げここに出てくるイナゴに
彼の時代のイスラエルを侵略する 暴力的な国々を重ねています
そのためイザヤ書ゼパニヤ書 エゼキエル書にある将来の主の日

の約束すなわち神が国々の悪に立ち向かい
彼らの暴力を彼らの頭上に返しすべての悪を正して正義をもたら
すという約束を引き合いに出しているの
です そして最後に回復された国土の
イメージを語るヨエルはそこに新しくされた世界の希望
を見ます イザヤ書エゼキエル書ゼカリヤ
書から最後の正義の日のあとに全世界が
回復されまるで新しいエデンの様に
神の臨在が川のようにエルサレムから流れ出し
すべてが造り変えられるという約束を引用しているのです
こうしてヨエルの詩は神の赦しとあわれみが
新しい創造を呼び覚ますところで終わります
ヨエル書というこの短い書は人間の罪と過ちがこの世界にどんな
荒廃と破滅を引き起こしたか また自分の罪を認め告白した人々
に対し神がどれほどあわれみを示そう
としているかについて深く考察しています
そしてこれらのことは神がいつの日か世界の悪と
私たちの中に宿る罪を打ち負かし 癒し
すべてを新しくしてくれるという希望を示しているのです
これがヨエル書です

500字要約

ヨエル書は預言的な詩で、時期が不確かでエルサレムの神殿に言及しながらも王がいないことからエズラ・ネヘミヤの時代ではないと考えられます。ヨエルは聖書に詳しく、他の預言書から引用しつつも、イスラエルの罪を特定せずに裁きの予告を述べます。彼は過去の出来事を通じて神のあわれみと希望を強調し、最終的に神の赦しと新しい創造を呼び覚ますメッセージを伝えます。ヨエル書は人間の罪と神のあわれみ、そして未来への希望について深く考察した詩です。